

2018年7月30日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 視聴率動向と編成戦略

視聴率は7月で月間三冠王56か月連続となり、在京民放局として歴代最高の連続記録を達成した。これまで55か月連続が最高だったが、これも日本テレビの記録。先人の記録をまずは1か月更新できたことは大変嬉しい。番組制作にあたる現場の社員スタッフたちに敬意を表したい。

すべての世代の視聴者に支持される番組作りが基本的な目標であり、できるだけ記録を長く伸ばせるよう、引き続き頑張りたい。

Hulu の7月期ユニークユーザーランキングで、安室奈美恵さんを取り上げたドキュメンタリー「Documentary of Namie Amuro “Finally”」が3位に入った。7月29日放送の「世界の果てまでイッテQ!」でイモトアヤコさんと安室さんの面会シーンが放送されたが、Huluではその面会の舞台裏を記録したオリジナルのドキュメンタリーを、番組放送直後から配信しており、それがランキング3位となった要因のひとつだと思う。イモトさん、安室さんの反響の大きさを感じている。

7月期ドラマについては、リアルタイム視聴率では目標に至っていないが、Huluのユニークユーザーランキング見ると、水曜ドラマ「高嶺の花」が1位を獲得。タイムシフトを入れた総合世帯視聴率は、同ドラマの初回が21.0%、第2話も20%近くで、かなり多くの視聴者の方に届けることができていると思う。土曜ドラマ「サバイバル・ウェディング」も総合世帯視聴率で初回15%を超えており、今後は、よりリアルタイムで見たい、と思って頂けるよう努力したい。

2. 営業状況

・放送収入

6月のタイムは前年比で大幅な増収。単発のサッカーワールドカップが増収に大きく貢献している。

スポットは関東地区の投下量は6月も前年比96.5%で厳しい状況。そうした中で当社は、ほぼ前年並みの水準を達成できた。

第1四半期としては、タイム、スポットあわせて前年超えの増収となった。シェアは上がったが、全体としては依然厳しい状況が続いている。

・放送外収入

第1四半期の放送外事業については、前年好調だったイベント・映画の反動で、売上、利益とも去年を下回っているが、個々の事業は頑張っている状況。

映画では、細田守監督の「未来のミライ」が7月20日から公開され、好調に推移。7月最後の週末の興行成績は3着をキープしている。家族そろって見られる映画なので、是非ご支援をお願いしたい。

7月25日からは東京ドームシティで「未来のミライ展～時を超える細田守の世界」も開幕。これまでの細田作品の原画などの展示物が見られる他、「未来のミライ」の世界観も追体験できる、体験型イベントとなっている。

また8月3日からは「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE」が公開される。現在放映中のアニメの初の映画化であり、期待している。

イベントは「世界一受けたい授業 THE LIVE 恐竜に会える夏!」を開催中。横浜アリーナでの公演に続き、7月28日29日には大阪城ホールでも開催。単なる恐竜展ではなく、新しいライブのアリーナショーとして、大変好評を博している。夏休みの期間中、名古屋・さいたま、福岡でも公演の予定。

また安室奈美恵さんの展覧会「namie amuro Final Space」を大阪と東京で開催。8月からは沖縄と福岡も加わり全国4会場で、9月16日まで。安室さんの軌跡をたどる体感型のイベントで、大変良い反応を頂いている。

7月2日からは、株式会社アマナイメージズへの、日本テレビのアーカイブ動画素材の委託販売を開始した。2年後の東京オリンピックに向けて、「過去の東京」の映像への需要あるタイミングでもあり、新しい事業の一環としてニーズに応えたい。

3. その他

・西日本豪雨の緊急募金について

当初は7月31日までの募金の予定だったが、被害の状況を鑑みて、8月10日まで延長することとした。

・「24時間テレビ41」チャリティーマラソンについて

7月の猛暑、過去の「24時間テレビ」の日の気象も考えると、暑い日になる可能性が当然ある。制作に関わる現場には、放送当日だけでなく、ロケなどでも入念な暑さ対策をするよう指示している。

・10月期改編に向けて

今のタイムテーブルの強化ポイントとしては平日の朝、平日午後のベルト番組の強化が重点項目。10月期には「PON!」を新番組に置き換えて、番組のフローを良くしようとする決心している。

大久保好男 代表取締役 社長執行役員

廣瀬健一 取締役執行役員 日テレラボ室長

福田博之 取締役執行役員 編成局長

(了)